

「塀について、考える（る）」→ ルック フォー アフター コロナ

数年前に入院する事があり、ベッドで時間を持て余していた時、最終章の生活と生きてきた時代を振り返る時間がありました。最終章の生活はともかく、今までの社会の進歩が異常なほど早く、人類史上進化の激動期の時期に生きていたと思ったものです。

社会の通信手段では、ポケットベル、自動車電話、肩掛け携帯電話、携帯電話の小型化、そして現在のスマートホンに至るまで進歩していますが、もはや通信のみならず、財布や情報取得の手段でもあり、当初の目的をスマートホンは突き抜けて、全く別物となっています。これからの施設や道具は、予想が出来なくて想定外以上でしょう。

我々が進路として選んだ建築の分野の技術者が使用した身近な道具でも、T定規、製図版、烏口、ケント紙、水張り、平行定規、トレーシングペーパー、角度定規、雲形定規、三菱ユニ、芯研器、マグネット製図版、青焼き、感光紙、マルチコピー用紙、ドラフター、プロッター、コンピューター、キーボード、キャド、マウス等、目を見張る変遷です。「T定規と製図版で作成した建築面図」から「デスクトップとマウスで描く建築図面」の時代です。

我々の住んでいる所を宇宙的に見れば、銀河系系太陽系市地球町になります。宇宙的な変遷では、人工衛星、スプートニク、犬、猿、ガガーリン、月面着陸、月裏調査、火星ロボット調査、地球誕生時の小惑星からのサンプル採取、土星の撮影、冥王星の撮影に向かっている現在、宇宙旅行がすぐそこまで来ています。今現在が、進歩の頂点なのでしょう。

進歩が進んで今は、コロナ禍の時代です。感染症は、マラリア、はしか、黒死病、スペイン風邪、コレラ、エボラ熱、エイズ、サース、新型コロナ、変異型コロナまでありましたが、パンデミックの進歩とは何なのでしょう。エイズは猿が宿主のウイルスから、新型コロナは蝙蝠が宿主のウイルスから感染したと言われていました。ウイルス進歩は、猿や蝙蝠などの動物から種の垣根を越え

て感染する事、或いはウイルスが変異していく事が進歩なのでしょう。

人類の進化は、解りやすいし納得が出来やすい。猿人、原人、ネアンデルタール人、クロマニヨン人、ホモサピエンス等、脳の容量が大きくなる事が進歩する事と割り切りやすい。



「コロナと共に生きる時代が来た」と感染症の専門家やテレビのコメンテーターが言っています。今までとあまりもなく述べてきましたが、哺乳類がウイルスの宿主ならば、ウイルスが、種の垣根を越えて変異して行けば、動物や魚類を含めた哺乳類が同じ感染症になる可能性がある事になります。コロナと共に生きた後には、何と生きるのでしょうか。

コロナ禍で生きていくには、密は避けよう、会食は4人以下で、ソーシャルディスタンスの確保、人混みにはいかない事、不要不急の外出は行わない等、こんな社会が続けば、進化していく大きな方向は、別れていく事、分断する事、孤立する事になるのかもしれませんが。太陽系や銀河系より移動できるとなれば、尚更の事となります。

アフターコロナの時代は、どのように生きる事になるのでしょうか。進化の頂点が、常に一番良い時とは限らないようです。しかし、マスクをして食事をする、相手と握手の出来ない時代、友人と肩を組めない、歓談の出来ない会食、対面で出来ない会話、こんな世の中で人は生きていけるのでしょうか、こんな世の中が面白いとは言えないですね。

(主任専門委員 川口憲一)

❁ 次回のタイトルは、「む」から始まります。